

本時のねらい

- 身近なものを活かし、比較することの表現について理解することができる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ロイノートを活用し、他クラスと学びの成果を共有することで、仲間と分かり合う学びの実現をめざす。
- 生徒たちの日常、身の回りにある身近なものを実際に撮影させ、学習内容と結びつけることで、生徒にとって主体的に取り組める授業をめざす。
- 日々の振り返りを学習の記録（ポートフォリオ）として記録させることで、単元の学びの視覚化を図る。学習後の授業者、仲間からのフィードバックを通じて、自己評価能力を育む。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- iPad
- テレビモニター
- ロイノート

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10 分)	・前単元で作成したポートフォリオを活用して、振り返りを行う。	・他クラスの生徒の考えや視点に触れさせることで、仲間との関わりの中で学んでいることに気づかせる。
展開 (30 分)	・単元のゴールを確認する。 『『どっち？』『一番～なのは？』を使って、大人も知りたくなるクイズを作ってみよう』 ・本時のゴールを確認する。 『身近なものを活かし、比較することができる』 ・ロイノートを活用する。【カード】「A is ○○er than B」 ・カードは文法の確認で練習した 6 種類 ・カードを選択し、A・B に当てはまる写真を検索、または教室内で撮影する。	・写真等も提示し、言葉だけではなく視覚的にイメージできるようにする。 ・タブレット上で作成したポートフォリオを共有し、単元の学習の見通しを持たせる。 ・生徒たちの日常、身の回りに溢れているものを撮影させ、学習材として活かす。 ・他のクラスで作成したカードを事前に共有し、活動への見通しを持たせる。
まとめ (10 分)	・ロイノートへのまとめ 本時の学習内容について振り返り、自分なりにまとめる。	・日々の振り返りを学習の記録（ポートフォリオ）として蓄積させ、学習過程を視覚化する。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



写真 1：返却された前時のポートフォリオで、先生や友達からのコメントを確認している場面。



写真 2：身近なものを活用しながら、比べる表現を確認している場面。



写真 3：自分が比べたいものの画像を選び、ロイノートのカードに貼付け、視覚的にイメージしている場面。

児童生徒の反応や変容

「あの子よりももっと面白い文章を作りたい」「あの子のまとめ方って上手やなあ」という発言を聞く機会が増えた。少人数での学びにより、仲間の意見を聞いたり、話しあったりすることが少なかったため、今回の実践により少しずつ子どもの学び方に変化が出ている。仲間の学び方に刺激を受け、互いに高め合うことができる関係性がクラス間を越えて築かれつつある。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

ICT は単に教授方法を支援するツールだけに留まらず、子どもの学びの「輪」を広げていく可能性がある。少人数で学ぶ授業であっても、日々の学びの成果（制作物・振り返り）を他クラスの仲間と共有し、相互評価を行うことで、学び合いの機会を保障することができると考えている。今後、学年を超えた交流にも挑戦していきたい。